

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 8 年 3 月 23 日

事業所名 ASKAulub大平

保護者等数(児童数)

回収数 16人

割合 100 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	16				
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	16			先生方の名前をなかなか覚えられないので、名札をつけていただけると助かります。	各スタッフ名札はあるのですが、運動を中心に行っていることや、名札を下げると札の位置が小さい子の顔の位置に来て危ないため、普段はあえて名札を控えています。名前が覚えやすくなるよう、スタッフ紹介の一覧を作成するなど、別案も検討してみたいです。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	9	7			
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	16				
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	15	1			
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	8	6	1		今年度もアスカスポーツクラブのイベントのご案内や地域イベントに参加しました。また、課外活動では公共施設も利用し、事業所以外での活動やデイ以外の子どもと遊ぶ機会もありました。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16				
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	16				
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	15	1			
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	9	4	3	保護者同士の交流は少ないが、子供同士が仲が良いので発表会などで話をするきっかけがある。保護者の交流は発表会の時くらいでしょうか。	イベント時に保護者同士の交流として有効的にご利用いただき、ありがとうございます。放デイの特性として一般的な保護者会の開催時刻（放課後）で行うことが難しい傾向にあるので、どのように取り入れていくか検討していきます。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	12	4			
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	15	1			
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	14	2			
	14 個人情報に十分注意しているか	15	1			
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	16				
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15	1			

満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	15	1		
	18	事業所の支援に満足しているか	16			いつもありがとうございます。
	19	送迎は正しく行われているか	14	2		送迎を利用していない。
	20	運動療育は役に立っているか	16			足が速くなり自分に自信が持てました。 長期休みの時に行ったことのない場所に連れて行っていただきのも、良い経験になっているようです。
	21	今後やってほしい療育はあるか	4	7	5	可能ならば水泳を希望。 1日がかりの遠出、皆でのイベント。 今のままでも満足しているので。  これからも色々な活動を行いながら、多角的にサポートできるようにしていきたいです。

\*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

公表

## 事業所における自己評価総括表 放課後等デイサービス

○事業所名	ASKAclub大平		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 10 日		～ 令和 8 年 2 月 20 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16人	(回答者数) 16人
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 10 日		～ 令和 8 年 2 月 20 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 12 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動をしっかりと行うことで、体幹の強化やストレスの発散、集団行動の向上に繋げている。 また、各スタッフに得意とする専門競技があり、球技や格闘技などの分野にも触れたり挑戦したりする機会がある。	基本動作の習得や体幹の強化に必要な基礎運動をしっかりと反復しつつ、プログラムが同じことの繰り返しにならないように曜日で主になるスタッフがかわったり、卓球や持久走、跳び箱、空手など様々な活動を行っている。最後にはレクの時間を設けたり、工作の日も設けたりすることで、楽しんで活動できるようにしている。	利用者の体格の成長や技能の向上に合わせて室内のみだけでなく、体育館やグラウンドでの活動も計画する。また、それぞれの好きなことや得意なことを見つけて、その場面で活躍できる機会を増やせるようにしていく。
2	様々な地域交流や競技として大会に参加する機会がある。	今年度の地域交流では小山南高校でのカヌー体験、栃木スポーツネット主催の親子マラソン・駅伝大会、Jリーグチームの栃木Cityサッカー体験に参加した。また、ウェイトリフティング競技・体操競技の大会にも出場できる機会を設け、様々な人との交流や場面の経験を積むことができた。	体験教室などは土日に開催されることが多く、土曜利用の子が参加することが多かったので、長期休暇期間を利用したり利用予定日以外でも呼びかけをしたりし、多くの人に機会を設けられるようにしていく。
3	児童・スタッフともに良好な雰囲気やメリハリがあり、どの活動も積極性や前向きな姿勢で取り組める。 イベントへの参加率が高い。	児童同士もスタッフも皆で遊ぶときは遊ぶ・やる時にはやると、切り替えの場面を分かりやすくして活動することで、心のスイッチがある。発表会などのイベントには参加率が高く『チーム大平頑張るぞ!』となれる。切磋琢磨して日々を過ごしているため、ライバルでもありつつとても仲が良い。	今後もペア活動やグループ活動を取り入れ、縦と横の関りを大切に、上級生は下級生の見本・世話を、下級生は上級生を見習う姿勢を持てるようにする。新規の子が入会や喧嘩があっても、しっかりとサポートしていくことで人間関係を学び、良好な関係・好循環な雰囲気を継続していけるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	IT機器を活用した活動内容の考案。	事業所の特性や家でタブレットやゲームが離れることが難しいという要望から、あえて機器から離れる時間を目的にしている部分があるが、正しい情報習得・PCやタブレットの使用時間と健康の関連性などを伝えていく時間が必要と感じる。また、運動場面でも動画やIT機器を活用できる方法があることを知り、有効活用する術を知れるといいなと感じる。	運動の場面で動画を用いて動作の確認をしたり、課外活動時に班でカメラを用意し自分たちで撮影・思い出のアルバム作りをしたりする活動を検討していきたい。また、ゲーム感覚でタイピングの練習をできる機会などを設ける。
2	利用日数が少ない子と多い子の技能の差がある。	利用日数は各ご家庭の状況や児童の状態に合わせて調整しています。しかし、事業所の特性もあり週1日の子と週3日来ている子では、段々に技能面や取り組みの差が見えてくる。児童の成長には個人差があることは前提にしつつ、利用日数が少ない児童も成長して行けるようにサポートをしていきたい。	利用開始時に事業所の特性や反復・継続の大切さを伝え、理解をいただこうと利用日数を適切に検討していく。また、週1日利用の児童は特に、活動の様子やご家庭の状態を考慮し、状況に応じて利用日数を増やすことを検討・相談していく。
3			

公表

事業所における自己評価結果 放課後等デイサービス

事業所名		ASKAclub大平		公表日 令和 8 年 3 月 23 日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		人数を分けて活動する日も設け、各活動のスペースを確保できるように工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		パーティションで区切って1つの部屋になる空間があり、机上での活動やクールダウン、その他の活動が可能。	今後も個別対応の際の場所を工夫したい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		日常的に丁寧な清掃、消毒が行われている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		コミュニケーションを大切のしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		些細な事でも気になったことがあれば、スタッフ間で共有・話し合いをして、改善案を考えている。意見を言いやすい職場となっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		各年度の施設評価の結果を基に、改善や向上を図っている。第三者の外部評価をどのように行うかは今後の課題。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		外部講師を招きプログラミングの研修をするなど、資質の向上に向けた研修を定期的に行っている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		毎日の様子や特性に合わせた支援ができています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			

適切な支援の提供

16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			様々なゲームを考えて行っており、プログラムが固定しないようになっている。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			送迎もあるため次の日になることもあるが、共有や振り返りを行っている。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	7			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2		
30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1		未だ、一般（成人）の福祉サービスに移行する事例が無い。このような事があった時のために、福祉サービスについても理解を深めていきたい。
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1		
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7			地域のイベント参加や施設利用をしている。 例：ねずみもちパーク、栃木スポーツネット 課外活動を通して、地域の子供達と交流できている。
33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		7		協議会への参加は今後検討していきたい。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			

関係機関や保護者との連携

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7			
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4	3	発表会などのイベントで子供達の活動を通して、保護者が交流する場面がある。	事業所の特性として一般的な保護者会の開催時刻（放課後）で行うことが難しい傾向にあるので、どのように取り入れていくか検討していきたい。また、長期休み期間を活用して、きょうだい参加可能な日を設けたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		活動の様子やイベントのお知らせ等をSNSやHPの会報からも発信している。	写真掲載に関しての承諾書の項目が分かりずらかったため、明確になるよう項目を改めた。配信する写真の取り扱いについて再確認をする。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		児童の手に届かない、目に入らない場所で保管できている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		スタッフ間の共有の徹底、HUGへの入力をする事で、アレルギーの対応を確実にしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			

54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			
----	--	---	--	--	--